小学部の実践

目　次

実践例　１「自分の思いを表す手段（ツールの活用・話し言葉）の獲得について」・・・・・・・　１
〃　２「記号や写真を活用して意思を伝える指導について」・・・・・・・・・・・・・・・・　３
〃　３「心理的な安定と社会性を高めるための実践について」・・・・・・・・・・・・・・・　５
〃　４「ＰＴ、ＳＴのアドバイスを生かして」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
〃　５「学校の友達とつながり、関わりを広げる授業づくり」・・・・・・・・・・・・・・・１０
〃　６「タブレット端末を用いた、意思伝達の手段の拡大を目指した指導実践」・・・・・・１２
〃　７「話し合い場面で思考を広げ、つながるために-タブレット端末の活用を通して-」・・１４
〃　８「発音の明瞭度を上げたり、発話のバリエーションを増やしたりするための取組」・・１６
〃　９「安定した歩行にむけての取組」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
〃　１０「多動性や自己刺激行動のある児童への働き掛け～「感覚あそび」を通して～・・・・２０
〃　１１「教師とのコミュニケーションを大切にした給食指導
～咀嚼動作と前歯を使って噛みきる動作の実践～・・・・・・２２
〃　１２「肩や腕、体を大きく動かし、動きを模倣することが
できるようになるための取り組みについて」・・２４
〃　１３「安定した座位姿勢を保ち、学習に向かうことが
できるようになるための取り組みについて」・・２６
〃　１４「着替えや排せつなどにおける姿勢保持に向けた支援」・・・・・・・・・・・・・・２８

小学部の実践

実践例１「自分の思いを表す手段（ツールの活用・話し言葉）の獲得について」

１　実態把握

・小学部１年男児、広汎性発達障害である。
・入学前は地元の幼稚園に通い、集団生活を経験している。
・単語程度の話し言葉があるが独り言が中心で、相手とのやりとりは難しい。幼稚園年長からささやき声で話すようになり、音声言語が減った。要求がある時は、クレーン行動で表す。
・極度の偏食と、排泄行為への抵抗があり、強いストレスがある。
・意に沿わないことや不安なことがある時に、唾を吐いたり、他傷行為をしたり、パニック状態になったりする。
・手順や活動のやり方等に固執することが多く、予定の変更や不規則なスケジュールに対応することが難しい。
・スキンシップをとることができ、教師に抱っこやおんぶをされることを好む。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 ・自分の意思を絵カードや話し言葉で伝える。　　・相手の要求に応えて行動する。		
指導内容	指導場面	指導方法
スケジュールや手順等の理解	日常生活の指導	・生活の見通しをもつために、予定を理解する取組 ・不規則なスケジュールや隙間時間の過ごし方を理解し、適応するための取組。
意思表示の手段の獲得	国語・算数（個別学習）	・絵や写真カード、話し言葉などのコミュニケーション手段を獲得するための取組。

３　具体的な指導実践

（１）手順表やスケジュール表の活用と理解

写真１

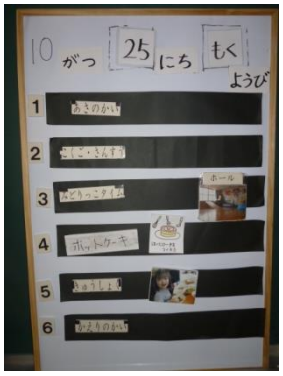

写真２

写真３

不規則なスケジュール（行事等による）、見通しの難しい活動、気がかりな出来事（放課後に通院や訓練がある）等が起因して、他者に唾を吐く、引っ掻いたり叩いたりする行動が見られた。予定を理解し、「○○の後は○○ができる」といった楽しみが分かることで、ストレスが減らせると考え、手順表（朝の活動：**写真１**）やスケジュール表（**写真２**）等の視覚的なツールを活用した。予定外の活動については、即時に絵（**写真３**）を提示して知らせた。

・楽しみな「給食」や「帰る」までの予定を理解し、そこまでの活動を納得して取り組めるようになった。
・不安な事や予定外の事でも、絵を見て「自分が今何をするのか」理解し、受け入れることができるようになった。

（２）個別の時間設定による語彙の獲得と心理的安定

写真４

写真５

２時間目（国語・算数）に２０分位の個別の学習時間を帯で設定している。手順に沿った課題の設定（**写真４**）で、終わりが明確に分かるため、自発的に且つ安心して取り組むことができるようになった。また、入学時には拾い読みだった平仮名の知識が、２音節以上の単語（**写真５**）を読めるようになったことで、語彙が増え、話し言葉の広がりに結びついた。

・個別の学習時間が教科の時間としてだけではなく、「心理的な安定」の役割を果たしており、朝の会を終えると、「お勉強！」と自分から準備をするようになった。
・数字や文字の獲得により、様々な場面で、手順表やスケジュール表の言葉を読んで理解し、活動の参加に結びついた。

（３）「ＮＯ」の発信と受容

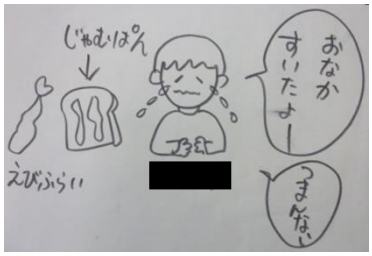

写真６

不快な事や不安な事があると、叫んだり、他者を引っ掻いたりといった行動が多かった。そこで、「いやだ」「やらない」を言葉で伝えることを教え、認めるようにした。（今日は○○に行きたくない、△△をしたくない、等）即時に「今日はやりたくないんだね」と、伝達できたことを認めてあげることで、落ち着きを取り戻すことがあった。

・不安定になった時に、教師が原因を予測し、即時に絵に描いて（**写真６**）「おなかすいたの？」等と尋ねると、「気持ちが分かってもらえた」という実感があったのか、その絵を満足げに眺めながら落ち着くということがあった。その後も、幾度とそういった出来事があり、「ＮＯ」の発信を受け入れ気持ちを代弁してもらったことを、視覚的に実感できたことが、気持ちの安定につながったと言える。

（３）成果と課題

○成果

・入学時は絵カードや写真カードを介しての要求表現が中心であったが、獲得する言葉が増えたことで、コミュニケーション手段も話し言葉が中心となった。教師に伝えることで話し言葉の有効性に気付き、「意に沿わない」ストレスが激減し、唾吐きがほとんど見られなくなった。２学期以降はささやき声で話すこともなくなった。
・視覚的なツールを活用し、その見方を理解したことで、手順、予定、予定変更、不規則な活動（行事等）を読み取ることができるようになり、終わりまでの見通しをもつことができるようになった。結果、安定した生活につながった。

○課題

・排泄行為への抵抗が強く、尿意を我慢している時に他傷行為が生じやすい。ストレスの大きな原因となっているため、尿意を伝え、トイレで排泄できる方法を考えたい。

実践例２「記号や写真を活用して意思を伝える指導について」

１　実態把握

・小学部３年生男児、精神運動発達遅滞である。
・コミュニケーションに関しては、「ママ」「はい」「いや」「ゴーゴー」などいくつか自発語がある。言葉や身振りでの簡単な指示を理解し、言葉掛けにはうなずいて応える。要求は実物の指差しや身振りで伝えることが多いが、一方的に伝えるだけで、相手に応じてやりとりすることは難しい。
・進級当初は、理由がはっきりしないが、何かを気にして気持ちが不安定になる、勝手に教室から出て行ってしまい行き先が分からない、というようなことがよく見られた。
・何らかの方法で意思を表すことができ、相手に伝わった経験を重ねることで、少しでも落ち着いて過ごせるのではないかと考え、記号や写真を活用した意思の伝達手段の獲得の指導に取り組むことにした。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 記号や写真を使って、言いたいことを伝える。		
指導内容	指導場面	指導方法
スケジュールの理解	朝の活動	・自分でスケジュールボードに活動を表す記号カードを張る。 ・記号カードを張り替えて、変更を伝える。
記号や写真の活用	学校生活全般	・教師が情報を伝えるときに提示する。 ・行きたい場所の写真を指さす練習をする。 ・やりたいことの記号を指さす練習をする。

３　具体的な指導実践

（１）スケジュールの理解

各時間の活動を表す記号カードを用意し、毎朝自分でスケジュールボードに張るようにした。カードは校時と対応して張れるように、カラーシールで色分けし、張った後に言葉で説明するようにした。活動に変更があった場合には、一緒にカードを張り替えて変わったところを確認するようにした。場所が変更になった場合には、一緒に写真を提示するようにした。

最初は、スケジュールの変更や初めての活動に対して不安を示し、大声を出す、壁や戸を蹴る、自分の腿や頭を激しく叩くなどの行動が見られた。夏休み以降はそのような行動が少しずつ減り、１日の動きに見通しがもてるようになった。１１月頃からは、変更を理解して受け入れ、落ち着いて活動できることが増えている。

（２）記号や写真の活用

事柄を表す記号と場所の写真のシートを用意し、説明や指示を伝えるときに提示するようにした。また、何かやりたいことを訴えているようなときや、教室から出て行こうとしたときに、シートを提示して問いかけ、当てはまる記号や写真を指さす練習した。

事柄については、自分からシートを使って伝えることはまだ少ないが、どれがやりたいのか尋ねると、記号を指さして答えるようになってきた。

場所については、数回練習すると、行き先の問いかけに写真を指さして答えるようになった。慣れてくると、自分から写真を指さして、行きたいことを伝えるようにもなってきた。現在は、行きたい場所の写真を指さして「(行っても）いい？」と教師に尋ねる練習をしている。

４　成果と課題

○成果

記号や写真を活用したことで、意味が分かる言葉が増え、簡単な説明や指示、問いかけを言葉だけで理解できるようになってきた。指示や問いかけに対しては、内容に合わせて返事、指さし、行動などで応じるようになってきた。

自分からやりたいことを伝えようとする気持ちも育ってきており、指さしだけでなく、身振りをしたり、発声で訴えたり、その場に教師を連れて行ったりするようになってきた。

また、意思を伝える際に教師を模倣しながら練習をしてきたことで、周囲の様子を見て動作や音声を模倣する様子が見られるようになってきている。

○課題

自分から伝えられることはまだ少なく、内容も簡単なことに限られるので、記号や写真だけでなく文字も活用しながら、より詳しい内容を表現できるようにしていきたい。

また、１～２音の音声を模倣できるようになってきたので、将来的には単語程度の言葉を話せるようになってほしいと考えている。言葉の習得と活用についても、視覚的手段と併せて検討していきたい。

実践例３「心理的な安定と社会性を高めるため実践について」

１　実態把握

・小学部６年男児、精神遅滞である。
・大人とのやりとりを好み、関心のあるアニメやゲームについての会話をする。
・独り言が多く、大人の口調を真似る。
・教師を手伝い、機器類等の片付けなどを進んで行う。
・気持ちが高揚すると急に笑ったり、手を叩いたり、友達や教師に乱暴な言動をとったりする。
・ペンや本など、学校や家庭の物を勝手に持ち出すことがある。
・校内やスクールバスに落書きをしたことがある。
・母は夜勤があり、主な養育は祖父母がしている。
・家でゲームをして過ごすことが多く、兄妹や母の外出時、本児は留守番をする。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 教師の話をよく聞き、場に応じた約束や決まりを守って行動する。		
指導内容	指導場面	指導方法
会話や遊びを通した コミュニケーション	学校生活全般 国・算（個別学習）	・今まで以上に本児が心地よく感じるコミュニケーションやスキンシップをとる時間を確保。 ・成就感を得られるプリント学習や、関心のあるパソコンを活用した学習。
ソーシャルスキルの獲得	合同自立２	・グループ活動を通して、必要なソーシャルスキルを具体的な「方法」として獲得するための学習。

３　具体的な指導実践

（１） 心理的な安定を目指して

母親が仕事を始めて不在になる時間が増えてから、情緒不安定になり、学校で女性に甘えてスキンシップを求める一方で、乱暴な言動をとることが多くなった。さらに大人の注意をひくために物を隠す、落書きをする等の問題行動がみられた。行動を注意されると行為がエスカレートするか、怖がって萎縮する。しかし、反省を促すと話題を変え、精神的に逃避しようとする。本児の様子から、母の愛情を欲しており、家庭との連携が必須であると考え、母の気持ちを受け止めながら学校の方針を伝えた。

情緒的なコミュニケーションをとる時間を今まで以上に確保する取組として、本児と常に教師が関わることとした。学部全体の協力の下、休み時間は教師が一緒に好きなサッカーや音楽鑑賞をして遊んだ。個別の学習では、本児の好きなパソコンを活用してプリント学習を行った。みどりっこタイムや学習を頑張ったご褒美に壁面や連絡帳にシールを貼り、保護者には称賛を本児に伝えるように依頼した。次第に、母親だけでなく大勢の職員から称賛される機会が増え、本児の励みにもなった。

また、問題行動が起きないよう、約束を机上に掲示したり、登下校時、本児と家庭と学校間で物を持ち帰らないことを約束したりした。問題を起こしたときは、本児が理解できるよう、説明や相

手への謝罪は端的にした。徐々に母親や教師の意識が変わり、注意を受ける機会は減り、心地よく感じる温かなコミュニケーションが深まり、問題行動は少なくなった。

言葉で理解したことを生活で実践できるよう机上に掲示。

（2）社会性を育てるために～合同自立活動２「にこにこタイム」～

ゲーム等のグループ活動を楽しみながら、必要なソーシャルスキルを具体的な「方法」として学んだ。生活場面のつまずきや困り事をテーマにするのではなく、参加しながら仲間と共に社会性を学んだ。学習活動は以下の通りである。

１　じゃんけん・・負けた時の気持ちを言葉で表現。負けた時の耐性。
２　3ヒントクイズ・・相手の話を聞くスキル。
３　２人３脚・・・相談。協調性。相手のせいにしない。
４　ふりかえり・・感想。気持ちの表現。めあての評価。

本児は、ふりかえりの感想文の中に「ゲームをして楽しかった。またやりたい」と書き、「にこにこタイム」で満足感を十分に感じた。

また、相手と気持ちの折り合いをつけながら活動することで、相手の気持ちを考え、自分の欲求を抑制したり切り替えたりすることができた。

じゃんけん。「負けてもまあいいか」と口に出すことが大事。

２人３脚。集中が途切れふざけることもあるが、気持ちを立て直して取り組んだ。

４　成果と課題

○成果

・家庭と学校が連携して本児への関わり方の意識を変えることで、学部全体の教師が優しく関わる機会を増やし、本児の安心感や成就感を高めることができた。
・本児が理解できている、満足感を得ていると捉えている生活の出来事（貸し借りの許可、教師との会話等）を再度見直すことで、獲得している理解や心理状況を再考察し、支援方法を指導に生かすことができた。

○課題

・感情の起伏が激しく変化する場合の対応・・・本児が感情をコントロールできなくなり喜怒哀楽が急変し、心理的に逃避することがある。引き続き心理的な安定を図るためにコミュニケーションを深めるとともに、改善困難な場合は、医療等含め校内での支援体制を検討する。
・約束を生活で実践することが困難であり、誰も見ていないと約束を守れないことが依然ある。学校での持ち物確認や、家庭での機器類の金庫での保管は継続している。環境を整えなくても、自己コントロールし正しい行動をとることのできる支援の工夫が必要である。

実践例４「ＰＴ、ＳＴのアドバイスを生かして」

１　実態把握

・小学部１年生女児、精神発達遅滞である。
・染色体異常症(18q-症候群)、口唇口蓋裂
・筋緊張低下
・PT、OT、ST は医療療育センターでH19.4～行っていたが、就学とともに PT は終了し、OT、ST は月１回程度受診。

【４月～５月中旬】

・「だっこして」の言葉がとても多く、登校時は一部だっこして教室に向かうことが多い。ランドセルを背負うこともいやがる。足取りが安定せず、長く歩かない(歩けない)。
・座っているときは姿勢保持の持続が難しく、前屈みになりやすい。
・大人とはすぐ親しくなれるが、子ども同士で関わり合って遊ぶことはあまりない。友達や教師の名前を繰り返し尋ね、覚えていっている。
・登校時はあくびをすることが多く、あいさつへの反応は少ない。時に関係なく、大人に「おはよう」とあいさつをする。あいさつを返すとき、相手の顔を見て言うことは少ない。
・尿意や便意を伝えることはなく、おむつが汚れている嫌悪感を伝えることもない。紙おむつを使用。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標　・体幹の力を強くできるように、階段の上り下りや中間位の姿勢を保持する運動をする。 【５身体の動き（１）（４）】		
指導内容	指導場面	指導方法
体重移動の感覚を身につける学習	自立活動 (みどりっこタイム) 学校生活全般	・体を動かす楽しさを感じるように教師と十分な関わり合うように工夫する。 ・外部専門家の指導課題をもとに行う。

３　具体的な指導実践

（１）日常生活での対応について

・目的地まで歩いて移動する体力や持久力をつける。
→「だっこして」は受容し、だっこしてあげる距離を短くする声掛けで対応する
「ぎゅっ、ぎゅっと歩くよ」と踏みしめる言葉掛けをする

（２）ＰＴ、ＳＴの指導より

Ｈ２５．５．２０　　ＰＴ

本人欠席で観察をしてもらえず、口頭で様子を伝える。

↓

【指導課題】

・椅子の背もたれにウレタンクッションを置き、座面を狭くして、足台をおいて前方への崩れを防ぐ。
・歩行時の下肢の振り出しをスムーズに行うことができるよう、中間位の姿勢保持（しゃがみ）や膝立ち位での振り出しを行う。
・腹背筋など両膝を曲げて頭上げ（へそ見）と腰上げを１０回ずつゆっくり行う。

Ｈ２５．６．６　　ＰＴ

座位姿勢、歩行を見ていただく。

↓

【指導課題】

・マット上ではくり抜きテーブルを使い、数分でも正座やあぐら位で座りながら学習するとよい。

・階段昇降時の介助の仕方（手の握り方）

・椅子に合わせた５センチの足台を作成
　体幹の伸展を促すよう、背もたれにU字クッションを作成

Ｈ２５．７．１１　　ＳＴ

【観察後の評価】

・ｐ／ｔ／ｋ／ｓ／ともに弱音化。

・ガラガラうがいができないとのこと。

・口唇閉鎖、舌筋力の弱さが見られる。

・虫歯が多い。口唇や歯茎に過敏がある。

↓

【指導課題】

・口唇マッサージ：頬をくるくるなでる、口唇を軽くつまむ。
　（食刺激に慣れる、筋緊張のイメージ↑）

・ストロー保持：口唇でストローをはさみ、５秒程度保持する（水で口を含んで保持→ブクブクうがいへ）。

・舌運動：「た」「か」の入った単語の発音練習。

Ｈ２５．７．１８　　ＰＴ

・トイレの使い方を観察　→踏ん張れるように足台を設置する。

（３）ＰＴ、ＳＴの指導を生かして

○みどりっこタイム（自立活動の時間）を中心に

①手すりを使って階段を上ったり、手すりと教師の補助で階段を下りたりする。
（４分以内に２往復する）（コースの工夫をする）

②膝立ち位の運動では、ボールを使って意欲を高める。

○国語の時間に「た」「か」の入った単語は意識して取り上げる。

○日常生活の中で

・座っている時や膝を閉じる。

・「わかば」に行く際の階段上りも介助の仕方を意識する。

○家庭との連携

・家庭訪問でＳＴの指導を伝え、口唇マッサージ、ストロー保持の協力をお願いする。

４　成果と課題

○成果

・ＰＴ、ＳＴから児童の実態に応じた指導課題を得ることができたことで、自信をもって指導することができた。

・階段の上りは足を交互に出して上ることがほとんどになった。階段を下りるのは介助がまだ必要だがリズムよくスムーズに下りることができるようになってきた。

・足の動きがスムーズになり、バランスよく歩くことができるようになってきている。長い距離を歩けるようになった。

・トイレに足台をつけたことや体幹がしっかりしたことがトイレトレーニングにもよい影響を与え、布パンツを使用できるようになった。

・口唇マッサージ等、夏休み中の家庭の協力もあり、歯磨きをあまり嫌がらなくなった。

○課題

・体幹の力を高める運動は、みどりっこタイムの時間を使って継続して行ったが、行事等で続けてできないことも多かった。日常生活の中での階段の上り下りや目的地への移動などでも、体幹の力を高めることができるように、より意識した言葉掛けを大切にする必要がある。

・ＳＴの指導課題は十分指導できなかった。指導時間を設定し、継続した指導ができるように工夫する必要があった。

実践例５「学校の友達とつながり、関わりを広げる授業づくり」

１　実態把握

・小学部３年男児、低酸素性虚血性脳症である。
・在宅訪問により自立活動の指導を週４時間（週２回：午前１０時から正午まで）行っている。
・表情や発声で快・不快を表す。
・頭を動かしてそばにいる人や抱いている人を見ようとする。対面で目が合うと笑顔を見せる。人見知りすることが減り、初対面の人からの関わりも受け入れて応えるようになってきた。
・左手優位。絵本や人形、光るものなどを好む。興味をもったものには自分から手を伸ばし、触る、握る、押す、引っ張るなどして遊ぶ。
・「そーれ」のかけ声が好きで、自分から手を動かして触ったり引っ張ったりする。
・月１～２回程度登校し、小学部３年の学級で友達との活動を楽しんでいる。

２　自立活動の目標と指導内容・指導方法

指導目標 ・呼名に対して発声し、左手を上げて教師の手にタッチして応える。 【５身体の動き（１）】【６コミュニケーション（１）】 ・教師や友達と関わり、家族以外の人にも自分の気持ちを表情や発声で伝える。 【３人間関係の形成（１）】【６コミュニケーション（１）】
指導内容 ・呼名への返事 ・所属学級の学習活動への間接的参加 ・集団の雰囲気を感じられる学習活動への参加
指導方法 ・担任や担任以外の教師と一対一でのやりとり ・動画による所属学級との間接的なやりとり ・FaceTime 通信を利用した、所属学級や学団との双方向のやりとり

３　具体的な指導実践

（１）呼名への返事

指導内容	児童の様子
・担任の呼名に返事をする。	・ほぼ確実に教師の手に左手でタッチした。体調がよいときには促しに応じて発声した。
・担任以外の教師の呼名に返事をする。（動画、同行訪問、スクーリング）	・動画は、回を重ねると返事をしなくなった。同行訪問やスクーリングでは、初めて名前を呼んでもらう教師にも左手を上げて応えることが増えた。
・所属学級の朝の会の元気調べのコーナーで、友達からの呼名に返事をする。（動画）	・呼名する友達が毎回変わるため、飽きることなく取り組んでいる。 ・初めは自分以外の場面でも左手を上げていたが、回を重ねるにつれ、自分の名前が呼ばれてから応えるようになってきている。

（２）所属学級の学習活動への間接的・直接的参加

指導内容	児童の様子
・所属学級の友達の「魚釣りゲーム」の様子を動画で見る。	・友達の声が聞こえると、顔を上げて画面を見た。しばらく注目して見ていた。
・ベンチ椅子に座り、魚釣りしている様子を動画で撮る。	・友達が映っている動画を見るときと同じ機器で撮影したためか、顔を上げて撮ることができた。
・スクーリングの際に、所属学級の友達と一緒にゲームの活動に取り組む。	・スクーリングでは、緊張する様子が減った。所属学級の友達からの関わりに笑顔を見せたり、隣にいる友達を注視したりするようになった。

（３）集団の雰囲気を感じられる学習活動への参加

指導内容	児童の様子
・友達の顔写真を使用した紙芝居を見る。	・友達の顔写真を見ると笑顔になった。紙芝居も時折笑いながら最後まで注目して見た。
・FaceTime での通信を通して、友達と一緒に劇の練習をする。	・FaceTime での通信では、友達の声が聞こえたり、映像が見えたりすると笑顔になった。３０分ほどの通信中、最後まで集中して練習に参加した。
・学園祭本番で、くす玉のひもを引っ張る。	・学園祭本番でも、練習と同じようにくす玉のひもを引っ張ることができた。

４　成果と課題

○成果

・所属学級とつながりをもった活動を設定し、お互いにやりとりを繰り返したことで、友達からの関わりを笑顔で受け入れたり、隣にいる友達を注視したりと、友達への関心が深まった。所属学級の児童の本児への関心も高まり、本児のスクーリングを心待ちにしたり、訪問指導での本児の様子を聞いたりするようになった。

・担任や所属学級の教師以外の教師とのやりとりにも笑顔を見せるようになった。スクーリング時に緊張する様子が減り、言葉を掛けられると左手を上げたり、笑顔を見せたりして応えることが増えた。

・学園祭や近隣小学校との交流及び共同学習での音楽発表等で、練習の成果を十分に発揮することができた。たくさんの観客の前でも自分から左手を動かして活動することができた。

○課題

・訪問指導の時間帯、通学している児童は縦割りの学習活動を行っているため、所属学級と双方向通信する時間の確保が難しい。お互いのねらいや活動内容を教師間で十分に話し合い、共通理解を図りながら、つながりのある活動と双方向通信する時間を設定する。

・喃語や発声が増えてきている。より意図的な発声や気持ちの表出へとつながるように、指導内容や方法、相手に伝えるための教材等の工夫が必要である。

実践例６「タブレット端末を用いた、意思伝達の手段の拡大を目指した指導実践」

１　実態把握

・小学部３年男児、アンジェルマン症候群である。
・行きたいところに移動したり、欲しい物を手に取ったりする直接的な行動で気持ちを表す。トイレ（股間を叩く、肩を叩く）、お願い（両手を合わせて叩く）などのサインはあるが、複数のサインを混同して出すこともある。あ、ま、ぱの音を中心にした喃語を話し、「ママ」（母や教師）、「パパ」（父）、「あめん」（ごめん）などの言葉はあるが、不明瞭であり聞き取りが難しいことが多い。指差ししたり、二つのカードを見て欲しい方を正しく選択したりして気持ちを表すことが難しい。
・タブレット端末が好きで、自ら操作して好きなユーチューブ画面を出して見ることができる。
・食べ物への関心が高いことから、昨年度半ばよりタブレット端末を用いて食べたいおかずを選択する取組を行っている。

２　自立活動の目標と指導内容・指導方法

指導目標 ・タブレット端末や絵カードなどを用い、自分の要求を伝える。 【３人間関係の形成（１）】【４環境の把握（５）】【６コミュニケーション（１）】 ▪質問に対し、ポインティングやサインで答えるなど、言語に対して応じる。 【３人間関係の形成（１）】【４環境の把握（５）】【５身体の動き（５）】
指導内容 ・タブレット端末を使って自分の要求を教師に伝える。 （「ねえきいて」のアプリで、画面上の複数の画像から自分の欲しいものを選択する）
指導方法 ・給食時に食べたいおかずをｉＰａｄで選択する。《１学期》 ・個別学習時にやりたい活動や見たい絵本をｉＰａｄで選択する。《２学期》

３　具体的な指導実践

（１）給食時に食べたいおかずを選択する

指導内容	児童の様子
・四つのおかずの画像の中から食べたいものを選択する。 児童の様子を受け、指導内容を見直した。	・正しく選択することが難しく、選択したおかずを渡すと強く押し返したり、ひっくり返そうとしたりすることもあった。選択して食べた場面でも、それが正しい選択だったのか、出されたものが単に嫌でないから食べたのかの判別が難しかった。
・二つのおかずの画像の中から食べたいものを選択する。	・右手前の位置のものを選択しやすいという癖が見られた。しかし選択肢が減ったことで画面に注目するようになり、「選ぼう」という気持ちをもって指を動かしている様子が読み取れるようになった。 ・目の前に食べ物がある状況で待たされることに苛立ちを覚え、集中しづらくなることが度々あった。

「ねえ、きいて」

画面に四つの選択画像

・毎日おかずを撮影して選択用の画面を作成する手間がかかることや、その待ち時間に本児が苛立つという課題が見えてきたことを受け、指導場面を見直した。個別学習の中で、ｉＰａｄを用いた選択の活動を行うことにした。

（2）個別学習時にやりたい活動や見たい絵本を選択する

指導内容	児童の様子
・四つの絵本の画像の中から、見たい絵本を選んで教師と一緒に見る。 ・四つの活動の画像の中から、やりたい課題を選択して取り組む。	・四つの絵本の中から見たい絵本を選ぶということが分かり、正しくタッチして選んだり、間違って選んだときにやり直そうとしたりした。手指の動作がスムーズでないために間違って選ぶこともあるが、手首を下から支えるように固定してやると指先で慎重にタッチしたい画像を選んだ。 ・絵本や活動の画面を覚え、六つ程度の画面を自分でスライドさせて求める画面を出すようになった。 ・選択した画像の横に実物を出してみせ「これですか」と確認する場面を設けて繰り返したところ、正しいときには実物をトントンと触ってから“お願い”とサインを出し、間違ったときには“いらない”と押し戻すようになった。間違ったときに“お願い”とサインを出して受け取った場合でも、少し時間をおいて考えて　から押し戻すようになり、正しく選択したり、気持ちを分かりやすく伝えたりすることが増えた。

正しくタッチするための支援

画面をスライドさせて画像探し

「この絵本ですか」「ちょうだい」

4　成果と課題

○成果

・個別の課題学習において、毎回同じ固定された画面を用いて選択の活動を行ったことで、見通しをもって取り組めるようになった。繰り返すに従って、正しく選択できることが増えた。
・正しく選択できるようになったことに伴い、対象を触って“お願い”のサインを出すなど、スムーズな動作とサインも増えた。また、自分の選択を受け入れてもらえることへ安心感をもち、間違ったときに怒らずに穏やかに押し返すようになった。

○課題

・指導当初は前年度の取組を踏襲する形で行ったが、成果を引き出すことが難しかった。年度を超えて継続する指導に関しては、十分な引き継ぎとともに、実態把握に基づく支援の練り直しを早期に行う必要があると感じた。
・課題に飽きてくると選択しようとする意欲の低下が見られたため、本児が関心をもって選択したいと思える課題の設定が必要であった。
・今後は、“行きたいところ”や“伝えたい気持ち”など、より生活に結びついた内容を正しく選択したり伝えたりできることを目指し、タブレット端末の活用を工夫していきたいと考える。

実践例７「話し合い場面で思考を広げ、つながるために
～タブレット端末の活用を通して～　」

１　実態把握

・小学部６年男子。精神遅滞である。
・話すことが得意で集会の司会などに落ち着いて取り組む。しかし、場の雰囲気や相手の状況を理解できずに、自分が期待する答えが返ってくるまでしつこく質問したり、一方的に話し掛けたりすることがある。会話にならないことも多い。
・細かい作業が苦手。字もきれいに書き直すように言葉を掛けられることが多い。
・パソコンやＣＤなど機器を操作することが好き。

２　自立活動の目標と指導内容・指導方法

指導目標 ・人との関わりを楽しみながら、適切なコミュニケーションの仕方を身に付け、行動する。 〈Ⅲ　人間関係の形成（３）自己の理解と行動の調整に関すること〉 〈Ⅵ　コミュニケーション（３）言語の形成と活用に関すること〉
指導内容 ・タブレット端末を使って自分の思いやアイデアを相手に分かりやすく伝えて、一緒に取り組む。
指導方法〈生活単元学習〉 ・手書き入力アプリケーション「GoodNotes」を使って自分の考えを伝えたり、宣伝グッズの制作に活用したりする。

３　具体的な指導実践

（１）話し合い場面で思考を広げるために

「コンサートをひらこう」の単元で、もう一人の児童とチケットやちらし、ポスターを作る宣伝係を担当した。本児は、昨年度も同じ係を担当しており、係のリーダーとして友達にいろいろなアイデアを提案した。

ペンの色はどうやって変えるの

写真はどうやって撮るの

みんなの写真を入れようよ

虹の絵を描こうよ

ポスターは字がきれいなＡくんに書いてもらおう

１台の端末を見つめながら、アイデアや操作方法を話し合う

【評価】

本児は昨年度のチケット作りの手順を覚えており、友達に自分のアイデアを伝えたり、作り方を教えたりすることができた。チケットやちらしを作るときは、手書き入力アプリケーション（GoodNotes）を使い、入力にストレスを感じないようにした。担当を決めるときには、「Ａくんは字を書くのが得意だから、ここをお願いしたい」など、友達のよさに気付き、生かす姿が見られた。

（２）友達とつながるために

２人に共通して興味のあるタブレット端末を使用したことで、係の目標を達成しようとする意欲も高まった。しかし、手書き入力アプリケーションは使ったことがなかったため、操作で困ったときはその都度教師に聞きにきた。そこで、操作マニュアルを作成し、それを手がかりに２人で考えて活動できるようにした。

【評価】

手書き入力アプリケーション（GoodNotes）は、書き込みや消去が簡単なため書き直しに抵抗が少なく、イメージ通りに描くことができた。本児同様、タブレット端末の操作に興味があり、友達のアドバイスを受け入れて活動に取り組むことを目標にしているＡさんとペアになることで、お互いに高め合おうとする活動ができた。

４　成果と課題

○成果

・興味のある機器の使用で、友達と関わり、アイデアを広げた。
・友達と入力から印刷まで行ったことで、やり取りを楽しみ、達成感を共有できた。

○課題

・自立活動の目標を達成するために情報端末の操作技術の向上ではなく、友達同士の話し合いを深め広げる支援の工夫がもっと必要であった。
（例）分かりやすい操作マニュアルの作成、入力箇所のガイド用紙の作成など

実践例８「発音の明瞭度を上げたり、発話のバリエーションを増やしたりするための取組」

１　実態把握

・小学部２年女子。染色体異常（１８ｑ－症候群）、口唇口蓋裂、筋緊張低下。
・発音が不明瞭で、母音化する。「か行」「さ行」「た行」「は行」「ら行」が顕著。また、一音ずつだとそれらしく発音できるものも、語中にあると母音化するものが多い。口唇閉鎖の困難さはあるものの、「ぱ行」「ば行」「ま行」の発音は比較的良好。
・認知の高さや内言語の豊富さのわりには、発話のパターンがとても少ない。似たような状況では全て同じ言い回しをする。（例：やりたくないとき、嫌なとき→「おしまい」又は「おわり」、痛いとき→「いたいのいたいの」、手助けしてほしいとき→「はいどうぞ」など）また、聞かれたことにタイミングよく答えることが難しい。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 ・明瞭に発音できる音を増やす。　【６コミュニケーション（２）】　・状況や相手が言ったことに適した言い回しを身に付ける。　【６コミュニケーション（３）（５）】	
指導内容	指導方法
安定した発声、明瞭な発音の練習 （みどりっこタイムで） 様々な言い回しの獲得 （教育活動全般で）	・息遊び、舌や口の周りの体操、発音練習。 ・息を安定して吐いたり調整したりするための体作り。 ・場面に応じた言い回しの例を教師が示し、本児が模倣する。 ・様々な場面や状況を教師が言語化して伝える。

３　具体的な指導実践

（１）　安定した発声、明瞭な発音の練習

・吹いて遊ぶ遊具（シャボン玉、水笛、ラッパ等）をいつでも遊べるように教室に置いたり（写真１）、息を使う活動（ぶくぶくアート、吹く楽器の演奏等）を実施したりした。また、給食で、固いものや大きいものを噛み切ったり、よく咀嚼して食べたりするようにした。みどりっこタイムの時間を使って腹筋や背筋を継続して行った。

写真１

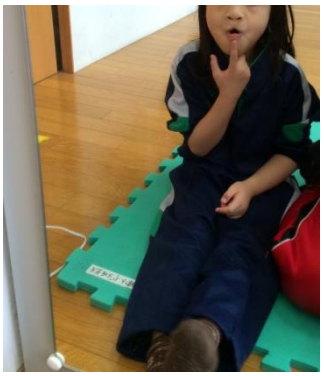

写真２

・息遊びや口・舌の体操を行った。（写真２）
息を長く細く吐く、口、鼻それぞれから息を調整して出す、肩やあごを動かさずに安定した声を出す、舌を平らに安定させて声を出す、自分の発音と文字とをマッチングしながら発音する、等をねらいとした活動を行った。

（２）　様々な言い回しの獲得

・好きな活動や必要度の高い活動を通して、必ず言葉でのやりとりを経てから活動に移るようにした。その際、教師が適切な言い回しの例を聞かせ、それを本児が模倣するという流れを繰り返して行った。例えば、依頼の場面においては「お願いします」「やってください」「開けてください」「貸してください」など、よりその場面に適した自然な言い回しの例を示すようにした。

・目の前で起きている出来事や友達の様子などを教師が「○○さん、△△を落としちゃったんだって。『あ～あ』だね。でも全部拾ったし、新しいのをもらえたから『もう大丈夫』だって。『□□先生、ありがとう』だね。よかったね。」などのように、言語化して伝えるようにした。

4　成果と課題

○成果

・吹いて遊ぶ遊具や活動はとても好きで、休み時間などにも自分から行っている。息が漏れないように口唇を閉じて息を吹き込もうとする様子が見られる。口や舌の体操にも意欲的に取り組んでいる。
・息や舌を安定させて落ち着いたいい声を出そうとしたり、文字と自分の発音とを比べ、一つ一つの音を区別して発音しようとしたりするようになった。「こ」「し」など少しずつではあるが明瞭度が上がってきている音が出てきた。
・教師が例を示したり、語頭の文字を言ったりすることで、場面に適した言い回しができるようになってきた。(例：トイレに行きたくないとき→「出ない」、手伝ってほしいとき→「やってください」「開けてください」)

○課題

・特設した発音・言語指導の時間はとっていないため、みどりっこタイムや休み時間など、生活の中で機会を捉えて毎日継続して行う工夫が必要である。
・普段一緒に生活している家族や担任などは、本児の言いたいことが大体汲んで取れるので、本人にも家族にもあまり困り感がない。今後、様々な人と音声言語でコミュニケーションをとったり、大勢の人の前で発表したりするために、本児が話していることが誰から聞いても分かるようにすることは必要なことと思われる。本児の豊かな内言語を、豊かな語彙や人とのコミュニケーションにつなげていくために、今後も引き続き取り組んでいきたい。

実践例９「安定した歩行にむけての取組」

１　実態把握

・小学部５年女子、主な障害は脳室内出血による両上下肢の著しい障害、精神運動発達遅滞である。
・未熟児網膜症で、日常生活に支障はないが、薄暗い廊下等では距離感がつかみにくい。
・着替えや排せつ等日常的な介助を必要としている。移動は支え歩きや車いす、ＰＣウォーカーを使用している。膝立ちでの移動や、バーにつかまっての横歩きも可能である。
・医療療育センターのＰＴに月２回、ＯＴに月１回通っている。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 ・筋緊張を緩める。 ・前傾姿勢にならないように、頭を壁に付け、後ろに重心を掛けて立つ。 ・体幹を意識した歩き方をする。 【５身体の動き（１）（４）】
指導内容 ・ＰＴのアドバイスを取り入れながら、毎日の活動の中で指導を行う。 ・意識して自分で体をゆるめる練習と、下半身を中心にしたマッサージを行う。 ・歩行の際に、顔を上げて腕を下ろし、歩幅を小さく、体を揺らさないで歩くように指導する。 ・日常の動作の中で、体幹や筋力を鍛える。
指導方法 ・毎日の自立活動の時間（みどりっこタイム）にマッサージと体をゆるめる時間を確保し、歩行や筋力を付ける指導に関しては学校生活全般の中で意識して行う。 ・児童が楽しみながら自然に行えるように、言葉掛けを工夫するとともに、歩行の様子を動画で撮って本人と確認し、成長を言葉で伝えながら取り組む。

３　具体的な指導実践

（１）筋緊張をゆるめる

ＰＴのアドバイスを取り入れながら、毎日の活動（みどりっこタイム）の中で、児童が自分で意識して体を伸ばし、全身を緩める時間を設けた。また、下半身を中心としたマッサージを行った。(写真①)

(写真①)

【評価】

「しっかり体を伸ばすと、歩くのが上手になるね」等、体を緩めたことの効果を言葉で伝えながら繰り返したことで、自分から体をゆるめようとするようになった。

（２）前傾姿勢にならないように、頭を壁に付け、後ろに重心を掛けて立つ

ラジオ体操の際に、壁に寄り掛かって立ち、支えがない状態で体操を行った。真っ直ぐに立っていることが意識できるように、立ったときに足の位置を整え、それが正しい姿勢であることを伝えた。体操で、頭を上げる動きのときに、壁に頭を付けるように言葉掛けをした。

(写真②)

【評価】

バランスを崩すことがほとんどなくなり、壁を頼りに一人で立って体操ができるようになり、頭を壁に付ける動作も自然にできるようになった。後ろに教師が立つことで、支えがなくてもバランスを取って一人で立っていられるようになってきた。(写真②)

（３）体幹を意識した歩き方をする

支え歩きをする際に、児童の脇を支え、顔を上げて腕を下ろし、歩幅を小さく、体を揺らさないで歩くように指導した。また、教師が後方に立ち、後ろに頼りながらバランスを取って歩く練習も繰り返した。

【評価】

以前は前傾姿勢で腕を上げ、上肢でバランスを取る歩き方だったが、腕を下ろして体幹でバランスを取る歩き方に変わってきた。教師が後方に立ち、後ろを頼りに立ったり歩いたりする練習を通して、歩く際に前屈みになることが減り、バランスを取って一人で立ち続けたり歩いたりするのがうまくなった。それにより、調子のいい日は靴を履いて独歩で３０歩（１５メートル）以上歩くことができた。

改善前：写真③④
（歩幅が大きく、腕が上がって上肢で
バランスを取っている歩き方）

改善後：写真⑤⑥
（歩幅を小さくし、腕を下ろして顔を上げ、
体幹でバランスを取っている歩き方）

（写真③）

（写真④）

改善

（写真⑤）

（写真⑥）

脇を軽く支え、手に圧を掛けて握ることで、好ましい動きを引き出す。
（ＰＴのアドバイスより）

４　成果と課題

○成果

・腕を下ろして歩幅を小さく、顔を上げて体を揺らさないで歩くことを「きれいな歩き方」だと児童自身も理解し、歩く際に「きれいな歩き方で歩こう」と言葉掛けすると、腕を下ろし、自分で歩き方に気を付けるようになった。
・歩行距離が伸びたことで、児童自身も手応えを感じ、意欲的に取り組むことができた。元々は苦手だったマッサージやゆるめの時間も、効果を言葉で伝えることで自分から取り組もうとするようになってきた。
・後方に重心を掛ける立ち方に慣れたことで、短時間（５秒程度）であればバランスを取って一人で立っていられるようになり、転びそうになった時に踏みとどまることができるようになってきた。

○課題

・独歩で歩く際、始めは意識していても距離が伸びると腕が上がり、上肢でバランスを取ってしまうことが多い。本人にとって、腕を下ろして歩く方が自然な動きになるまでは、独歩の練習よりも体幹でバランスを取る歩き方の獲得を優先させ、毎日の歩行指導を継続していきたい。
・安全面の確保のためにも、転びそうになった時の動き（ゆっくり座る、手を出す等）も身に付けられると良いと感じる。
・本人が歩くことを楽しみながら自然に筋力やバランス感覚を伸ばし、歩く動作を身に付けていけるように、様々な学習とリンクさせながら日常の中で継続して指導を行っていきたい。

実践例１０「多動性や自己刺激行動のある児童への働き掛け～「感覚あそび」を通して～」

１　実態

○小学部１年男子、知的障害。

○特徴的な行動の様子

・高所、トランポリン、ブランコなど揺れや回転のある全身を使った遊びを好む。

・カード（公文式の絵カードなど）や、かるたを並べて楽しむ。

・絵本を読む（ページを素早くめくる、絵本をハンドルのように左右に振る）。

・単語で身近な言葉をいくつか話す。質問は、答えなかったりオウム返しをしたりすることが多い。→最近は的確に答える（「トイレいく？」「だいじょうぶ！」、絵本を見て「おもしろかった」）場面も見られるようになってきた。

・行動パターンを自分で決めて、毎日その通り行うことが多い。予定変更があると不安な表情になり、「きがえする」など何度も自分のやりたいことを話したり、泣き叫んでパニックになったりする。→最近は絵カードで予定を理解するなどして、変化に対応できるようになってきた。

・偏食。パン、カレー、ジュース、アイスなど特定の物を食べる。→最近は誘いに応じて白いご飯、肉や魚を少しずつ食べるようになってきた。

・好きなこと、気になることが目につくと衝動的にそれに向かって走り出す。名前を呼び掛けても止まらず走って行くことが多い。道路等、危険回避が難しい。

・休み時間など自由な時間は、一つの場所にじっとしていることが少ない。次から次へといろいろな遊びをする。絵本を読みながら歩くなど二つのことを同時にしようとする。

・ほぼ一人遊びだが、場を共有して友達と遊ぶ。友達への関心もあり、一方的だが自分から関わったり気を引く行動をしたりすることもある。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 ・学習活動に関心をもち、その場から離れることなく誘いに応じて教師と一緒に取り組む。 【２心理的な安定（１）（２）】【３人間関係の形成（４）】
指導内容 ・関心がもてる活動の設定　・情報の整理、刺激の少ない環境作り ・見通しをもたせる工夫　・言葉やカードでやり取りする場面の設定
指導方法 ・身振りや絵カード等の活用　・静と動の活動設定　・感覚あそび

３　感覚あそびの取り組み

＜５月２９日　ＯＴ支援日＞

○高橋ＯＴから

・感覚刺激の閾値が高いため、強い刺激を求めて衝動的で危険な行動をとりやすいのではないか。

・感覚刺激の欲求を満たすために、安全で強い感覚刺激を代わりに入力する工夫を。

⇩

・座っているとき両肩を上から押すと、動きが落ち着く様子が見られるようになった。

・見通しがある活動には５～10 分程度座って取り組めるようになってきた。集団での活動、校外学習など刺激が多いときはやはり多動性、衝動性が見られる。

＜９月１２日　ＯＴ支援日＞

○高橋ＯＴから

・運動覚、触圧覚、前庭覚を総合的に入力する遊びを。

①ピーナツボールの押し合い

児童と向かい合い、ボールを押し合う遊び。

↓

関心が低いのか、押す感覚が上手くつかめなかったのか、活動にあまり乗ってこなかった。

②マットの中で圧迫と回転の刺激

重さと厚みのあるマットに児童が寝て、ぐるぐる巻きになって回転する遊び。

↓

笑い声、楽しそうな表情が見られた。「早く」と話し、更に強い刺激を求めた。

③大きな滑り台を押す

大きな滑り台を移動する遊び。

↓

滑りたい気持ちから、積極的に「押す」動作が見られた。

４　今後の取り組みに向けて

・「落ち着きのなさ」を、感覚の面からアプローチすることで、違う視点から児童をとらえるきっかけとなった。他の児童も、こうした視点から考えてみたい。

・毎日の学習のなかで、いつ・どんな時間に設定すれば良いのか検討していく。また、普段の学習でこうした動きを取り入れた活動を設定できないか、検討していく。

・関心が持続し、積極的に取り組めるような遊びを検討する。

実践例１１「教師とのコミュニケーションを大切にした給食指導
～咀嚼動作と前歯を使って噛みきる動作の実践～」

１　実態

○小学部３年男子、知的障害。

○特徴的な行動の様子

・トランポリン、ローリングカー、滑り台など揺れや回転、加速度のある全身を使った遊びを好む。

・友達への関心が高まってきており、友達の顔をのぞき込んだり側に行って立ち止まったり、誘いかけを受け入れる場面が多く見られる。

・言葉掛けに対する発声や動作が増えてきている。自分から教師の言葉に合わせて礼をして挨拶をしたり、友達からの問いかけにタイミング良く返事をしたりする場面がある。

・興味のあるものや人、場所などに突然走り出すことが多く、危険回避が難しい。しかし、名前を呼んだりすることで立ち止まることが増えてきている。

・手に持った物を顔の近くへ持っていき、音や感触を確かめる。なめたり口の中に入れたりすることがあるため、見守りが必要である。

・食事は、口に入れた食べ物をあまり咀嚼せずに丸飲みして食べるため、量を調整して咀嚼を促す指導を行っている。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 ・歯と舌を使って、食べ物を噛んで食べる。 ・食べたいものなど自分の気持ちを教師に動作や声で伝える。 【３人間関係の形成（１）】【５身体の動き（３）】【６コミュニケーション（１）】
指導内容 ・刺激の少ない環境作り　　・「できた」を認める場面作り ・具体物を提示し、簡潔な言葉を使ったやりとりの場面の設定
指導方法 ・１回に食べる量の調整をする（縁のついた皿に１回から２回分の食べ物を取り分ける） ・歯で噛みきる動作を促す（短い言葉や擬音などを使って） ・食べたいものなどを伝える動作や発声を促す ・頑張ったことや良かったことを具体的に称賛する

３　給食の時間の取り組み

＜８月３１日　ST 支援日：給食メニュー　冷やしうどん、揚げちくわ、牛乳＞

◎佐藤 ST から

・うどんを丸飲みしている。吸い込みながら飲み込んでいて、咀嚼がない。

・口唇を閉じて噛みきる動きはできるようになってきているが、舌の動きは前後が多い。今後、左右の動きを育てていく必要がある。

⇩

・麺類はきざみにして、舌、咀嚼、顔上げの動きを促す。

・上下歯で食べ物を挟んで首を振って噛みちぎる動きを引き続き行い、口の使い方の練習をする。

＜１０月５日　ST 支援日：給食メニュー　あんかけ焼きそば、春巻、スープ、牛乳＞

◎佐藤 ST から

〇きざみで少し食物が口の中にとどまる時間が増え、咀嚼動作が微増した。

〇前歯での噛みきる動きは、上下歯に力を入れてできるようになってきている。

〇担任と関わりをもちながら食事を進めることで、やりとりをしながらゆっくり食べることが増えてきている。

⇩

・今後も引き続き継続した支援、関わりに取り組むことが大切。

＜前回との大きな変化のポイント＞

①担任からの関わり：皿が空っぽだという意識をもつことができるようにする
食べたいものを確認する
気持ちを共有する（おいしいね、上手に食べているねなど）

⇒食事中に自分から気持ちを伝えようとすることが増えた。そのことで、待つことややりとりが生まれるようになってきた。

②麺の長さ、大きさの調整：キッチンばさみを使って調整をする

この変化が、咀嚼動作の増加や噛みきる動作の向上につながってきているのでは。

４　今後の取り組みに向けて

・今後も引き続き咀嚼動作や噛みきる動作へのアプローチを行う。（家庭との共通理解）

・気持ちの共有、簡潔な言葉を使ったやりとりなどを通して、基礎的なコミュニケーションの力を伸ばしていく。

実践例１２　「肩や腕、体を大きく動かし、動きを模倣することが できるようになるための取り組みについて」

１　実態

○小学部４年男子、知的障害。

○特徴的な行動の様子

・初めてのことや不得意なことには消極的になり、泣き出したり目をつぶってしまったりすることがあるが、事前に具体的に内容を伝えたり、練習を積んだりすることで自信をもって取り組む。

・様々なことに関心をもち、テレビ、インターネット、新聞、身の回りの掲示物などから知識や情報を得る。知ったことを伝えようとする。

・基本的な会話が成立し、場に応じたやりとりも少しずつできるようになってきた。

・ラジオ体操、体づくり体操、ダンスなど体を大きく動かしたり部位を意識して動かしたりすることや、動きの模倣を苦手としている。

・書ける文字も増えてきているが、「書く」ことに苦手意識がある。

２　自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 ・肩や腕、全身を大きく動かして、前で演示している動きを模倣する。 【５身体の動き（３）】【６コミュニケーション（１）】
指導内容 ・様々な体の動き（体操、ダンス、基本的な動き）　・簡単な点結び
指導方法 ・体育、業間運動の時間に体を大きく動かすことができる活動を取り入れる。また、ポイントを絞って動かすことができるように「今日のポイント」として近くで演示しながら一緒に確認する。 ・国語算数の時間に、同じグループの友達と一緒に簡単な点結びの課題に取り組む。レベルを付けたりゲーム方式にしたりして楽しんで取り組むことができるようにする。

３　国語算数、業間運動の時間の取り組み

＜担任として・・・＞

ダンスなどの動きの模倣がなかなか難しい・・・。「同じ動き」と伝えても動きを止めている。
強制すべきことではないし・・・けど、動きの模倣はしてほしい。苦手でできないのか、嫌いなのか、それとも機能的、認知的に何か課題があるのか・・・。
今後に向けて、何か工夫できるところはないか？？　　と考え、課題を出しました。

＜６月２０日　ＯＴ支援日＞

◎高橋ＯＴから（今回観察されたこと）＜業間運動の時間を中心に＞

・体操→主に上肢の動きを伴う体操の模倣が苦手な様子。本人も苦手意識がある様子。

・ランニング→走るのは早い。フォームも特に問題なし。

筋緊張、可動域には問題なさそうだが、空間関係の把握は苦手そう。

⇩

授業での模写など、視知覚能力について把握する必要がある。

点を結ぶ課題、ペグさし、△や／線を書いてみる課題に取り組んでみるとよい

フロスティッグ視知覚検査に取り組んでみるのもよい

⇩

そこで　**☆国語算数の時間に「点結び」の課題に取り組んでみる。**

＜８月３１日　ＯＴ支援日＞

◎高橋 0T から（今回観察されたこと）＜国算の時間に書字の実態について見てもらう＞

・書字→苦手意識があるようでなかなか書き出さない。

・文字の書き出し位置が分からない。縦、横の指示理解も曖昧な面が見られる。

⇩

空間関係、空間における位置を把握する能力について確認が必要。

・簡単な点結び、仲間はずれ探し

・フロスティッグ視知覚検査の実施

・体をたくさん動かす（ボディイメージの獲得）

⇩

そこで　**☆国語算数の時間により簡単な「点結び」の課題に取り組んでみる。**

４　今後の取り組みに向けて

○アドバイスを受けて、「点結び」「仲間外れ探し」「位置関係の把握」などの課題に取り組んでいく。

○視知覚検査については、早めに何らかの形で実施、もしくは一部でも実施できればよい。

○様々な体の動きを楽しみながらできるように、工夫して取り入れていきたい。

実践例１３「安定した座位姿勢を保ち、学習に向かうことが できるようになるための取り組みについて」

１　実態

・小学部３年女子
・知的障害、両下肢機能の軽度障害（６級）、斜視や乱視、見えにくさがある。
・低緊張のため姿勢の保持が難しく、猫背で視線が下がりやすい。座っている時に足を組んだり伸ばしたりすることが多い。
・書字においては、プリント等に顔を近づけて書いているため、さらに姿勢が崩れやすいが、点つなぎや迷路などの課題はクリアしており、目と手の協応はできる。

２　外部専門家から観察された事項や評価　～６月３日（月）ＰＴ支援日

・全体的に低緊張で関節が緩いため、支持性が低く、バランスがやや不安定。
・椅子座位では、頸部と上部体幹が屈曲することが多く、側弯も見られる。

３　課題

（１）ねらい

・骨盤前傾と体幹伸展を促し、安定した座位姿勢を保ちながら学習に取り組む。

【５　身体の動き（２）】

（２）指導内容

・股関節を屈曲させて、背筋が伸びるようにする。

（３）指導方法

・椅子に三角クッションの背もたれを追加する。座面にも三角クッションを敷き、前方への滑りを防ぐ（現在、日常生活全般をとおしてクッションを活用している）。
・家庭で使用している座位保持椅子を参考にして本児に合ったクッションを制作する。
・今後、机や椅子の高さを調整し、学習しやすい環境を整えていく。
・体育やみどりっこタイムなどで筋力をつける運動を取り入れる。

４　指導の経過

（１）外部専門家の所見　～７月１８日（木）ＰＴ支援日

・座面に三角クッション、背部にも三角クッションを敷いたことで、骨盤の後傾を修正し、体幹伸展を保持できるようになった。

・視力低下、斜視により目と手の距離、目と物の距離によって、更に姿勢が崩れやすい。

→机の高さを３ｃｍ高くすると良い。

・筋力トレーニング（例：正座や立ち膝でのボールキャッチ、片足立ちでボールを転がす、蹴る）

（２）筋力をつけるために

・立位での着替え・・・医療療育センターのＰＴ参観を参考に。

・業間運動の時間を活用したストレッチ
（片足膝立⇒両腕を左右に伸ばす、四つ這い⇒片足を上げて伸ばす、など）

・体育でのボール運動・・・ボールの上に片足を乗せて１０秒キープ。ドリブルシュート。

（３）今後の取り組みに向けて

・頸部と上部体幹の屈曲を軽減し、学習しやすい環境を整えるために、文字を読むときに書見台を使用してはどうか。

実践例１４「着替えや排せつなどにおける姿勢保持に向けた支援」

１　実態

・小学部６年男子　脳性まひ
・上衣は左腕、頭、右腕の順に脱ぎ、座位保持椅子に座ったままたたむことができる。着るときには袖と頭を通した後、教師の介助が必要。チャックは両手を使って大体上げ下げできる。
・洋式便座に補助便座を付け、足台を使い排せつしている。
・ずりばいでは５ｍ程度、ウォーカー、自走式車いすでは休憩しながら２０ｍ程度自力移動できる。
・あぐら座位で座位を保てるが、不安定である。
・立位の姿勢では常に介助が必要。
・マイク音や男性の低い声、後ろからの人の動きなどに対する緊張が大きい。

２　外部専門家から観察された事項や評価　～５月２９日（水）ＯＴ支援日

・支持台（平行棒）による歩行訓練：上肢の引き上げで立位になる→連合反応で下肢の筋緊張高まる。
・ＳＲＣウォーカーの調整：体幹の位置を上げるために、４から７に高さを上げる。サドルをやや前方に倒す。

☆留意事項

・足の位置の確認
・足にしっかり体重をのせるために床を見る（お辞儀をする）
・座るときも床を見るようにしてしっかり前屈位をとらせる

３　課題

（１）ねらい

姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること　【５　身体の動き（１）】
～着替えや排せつなどにおける立位保持に向けた支援～

（２）指導内容

・体全体のストレッチ（ほぼ毎日）
・支持台（平行棒）を使用した立位の練習
・ＳＲＣウォーカーを使用した歩行移動
※立位と歩行は行間体育の時間に日替わりで実施

（３）指導方法

・左右の板に両肘をのせて掴み、座位の状態から立ち上がる。
・つま先は真っすぐ向けて（外側に開かない）体勢を５秒間キープする。
・背中や腰を支えられながら自分で座位の姿勢に戻る。

４　指導の経過

（１）変化が見られた様子

・トイレや着替えの際、以前ほど下肢が筋緊張せずに足台に着地し、立位を保持できるようになった。

（２）今後の取組に向けて（課題と展望）

・自操式車椅子移動への移行
・訓練時間、回数の確保
・ウォーカーでの移動距離の伸長
・「立つ」「歩く」ことへの自信が付いてきたので、体育や学園祭でのステージ発表などで生かしていきたい。